

# フラッセル日本人学校補習校 学校だより No.17



## ベゴニア

～「わかった」「できた」「来てよかった」  
の笑顔あふれる補習校～



## 10月20日(日)マロニエ祭に向けて…

2024(令和6)年9月14日

文責 校長 佐藤 博

14日の朝はマロニエ祭に向けた「古本回収」に多くの方がご協力いただき、本当にありがとうございました。6月29日に実施したものと合わせると、たくさんの古本が集まったようです。寄付していただいた古本は、10月20日(日)に開催予定のマロニエ祭の「古本市」で、例年通り販売予定です。マロニエ祭に向けては、今年もすでにマロニエ委員の方が何度か集まって話し合いを進めてくださっています。先週の全校遠足の時には、音響機器のチェックを行ったり、ピアノやドラム等の楽器のチェックを行ったりと、着々と進められているようです。補習校からも出し物をする学年もあるようですので、当日、どのようなパフォーマンスがあるのか楽しみです。古本回収にご協力いただいたたくさんの方々、本当にありがとうございました。



## 日本人会主催「ヨガ体験教室」開催！

日本人会では、昨年度から補習校の待ち時間を活用して、様々なイベントを計画してくださっています。17日は「ヨガ体験教室」が多目的室にて開催されました。今回の企画は案内が出されてから結構早めに定員に達したようで、行きたかったのに残念ながら参加できなかった、という方も多かったようです。私もほんの少しだけ見学させていただきましたが、見ているだけでこちらでも健康になりそうなくらい、みんな楽しそうに、元気はつらつ(古っ!)とした雰囲気でした。また次のイベントにも期待しています。



## 退学に関するお願いです(事務室より)

1) 退学届の締め切りは最終登校日の2週間前です。第2回納入期間

10月末で退学をする方は10月12日(土)までに退学届を提出ください。退学に関わる書類はホームページに掲載しています。(補習校ホームページ「退学」のバナーより)

2) 2024年11月8日(金)に引落予定の2024年度第3回納入期間中(2024年11月～2025年3月)での退学が決まっている方は10月12日(土)までに事務室までご連絡ください。授業料を在籍期間分(退学月まで)の金額で引落させていただきます。

3) 引落とし通知書が取引銀行より送付されますので領収書は、省略させていただいております。税務申告等で別途領収書の発行を希望される方は、[sasaki-jimukyoku@japanese-school-brussels.be](mailto:sasaki-jimukyoku@japanese-school-brussels.be) 宛にご連絡ください。

# 日本語の習得に向けて②～多読のすすめ～

9月3日(火)、在ベルギー日本国大使館にて実施された「日本語セミナー」に、補習校教頭と一緒に参加してきました。このセミナーはベルギー日本語教師会(BNK)と国立日本語研究所、そして在ベルギー日本国大使館とのコラボ企画として実施。日本から国立国語研究所の松下龍彦教授をお呼びし、「日本語・日本文化学習における多読の原理と方法」についての話をいただきました。

この題目にもなっている多読とは何かネットで調べたところ、次のように書いてありました。

「多読」とは読んで字のごとく、本をただひたすらたくさん読むこと。これに対して、文章の内容を一つ一つ丁寧に解釈して読むことを「精読」という。

補習校での国語の学習は意味を理解しながら学ぶ、いわゆる「精読」であり、多読とは数年前から日本の学校でも多く取り入れられてきた「朝読」と似たようなものといえます。(ちなみに日本の「朝読」ですが、数年前は盛んにおこなわれていたのですが、学校の多忙さに埋もれ今は衰退しつつあります。そのくらい日本の学校はベルギーと比べると忙しいです。トホホです・・・(´;ω;)ウウ)

この多読、補習校での実施ははなかなか時間がとれず難しいのですが、それぞれの家庭では取り組むことができそうだったので、ベゴニアの紙面で紹介します。その際には、いくつか注意すべきことがあるようなので、松下教授が講義の中で紹介した「多読の原則」について右に載せています。また、特に大事なものを下に紹介します。



## 10原則 (Day & Bamford, 2002)

1. 易しいものを読む
  2. 幅広いトピックのさまざまな読み物が提供されている
  3. 学習者は自分で読みたいものを選ぶ
  4. できるだけ**多く読む**
  5. 読む目的は通常、楽しむこと、情報収集、内容を全般的に理解すること
  6. 読むこと自体が糧となる
  7. 読む速度は通常どちらかと言うと速め
  8. 1人で声を出さずに読む
  9. 教師は学生を導きサポートする
  10. 学生にとって、教師は読者としての手本である
- (Nation & Waring (2020)(Tabata-Sandom ほか訳, 2023)『言語教育における多読』くろし出版、p.252、訳：田畑サンドーム光恵)

## ①易しいものを理解しながら読む・・・子どもが楽に理解できる

易しい内容のものを読ませてください。わからない単語を調べることは否定しませんが、多読では未知語は2%以内がいいと言われています。速く読めるくらい簡単な内容のものがベストとのことです。

## ②できるだけ多く読む・・・目安としては1日約10分、毎日続けることが大切とのこと。

## ③楽しんで読む・・・多読の目的はとにかく「楽しむこと」です。わからない言葉を調べながら読むと、ついつい「お勉強モード」になってしまい、本自体を楽しむことができなくなるそうです。本を読むことを思いっきり楽しませてください。

※前回同様、この「多読」についても、日本語習得の一方法にすぎません。最終的には、それぞれのお子さんに合った方法を各家庭で見つけて取り組んでみてください。また下には松下教授が研修で紹介していた『多読用リソース』のページを載せています。ぜひご活用ください。

## 2. 多読用リソースの紹介 (オンラインリソースも交えて)

- (紙の本)・・・紙の本のよさがあります
- ・日本語よむよむ文庫 (NPO多言語多読)・・・日本語多読の草分け
  - ・日本語多読ボックス (NPO多言語多読)
  - ・げんき多読ボックス (坂野ほか)  
・・・教科書に準拠して語彙をコントロール
  - ・Let's Read Japanese! (Anaiほか編)・・・Oxford Brooks University (イギリスでは購入しやすはず)

- (オンライン)・・・コロナ禍ではアクセスが急増
- ・読み物いっぱい (田畑サンドーム光恵ほか、手前味噌ですが...)
  - ・さくら多読ラボ・・・コース管理ができる、語彙テストがある

## 2. 多読用リソースの紹介 (オンラインリソースも交えて)

- ◆多読サイトへのリンクを集めたポータルサイト：  
<https://tadoku.org/japanese/other-grs>  
[https://nihongo-e-na.com/jpn/hint/id874\\_1.html](https://nihongo-e-na.com/jpn/hint/id874_1.html)
  - ◆そのほか、ときどき使ったサイト：福娘童話集  
・・・日本語はときどき難しいが、話が豊富で、学習者の知っている話もある、音声付きが多い
- \*いろいろ紹介するとよいが、教師が読み物を把握するメリットもあるので、初めはリソースを限定して始めてもよい